平成30年12月3日

平成３０年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立峰小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。
こうした考えから，平成３０年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。
また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

平成30年4月17日(火)

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）
中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第４学年	国語	76人	算数	76人	理科	76人
第５学年	国語	68人	算数	68人	理科	68人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

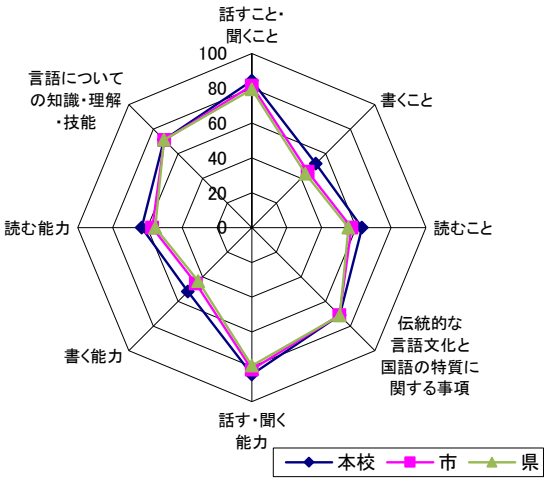
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立峰小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	84.4	81.6	79.4
	書くこと	52.0	45.4	43.6
	読むこと	63.3	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.3	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	84.4	81.6	79.4
	書く能力	52.0	45.4	43.6
	読む能力	63.3	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	71.3	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

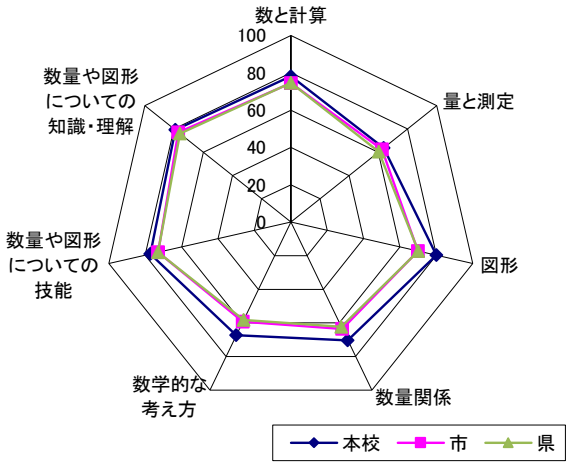
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は84．4%で，市及び県の平均を5%程度上回っている。	・発表や話合い活動の場における聞き方・話し方の指導や，国語の授業での「話す聞くスキル」の活用を続け，要点を捉えて聞いたり話したりできるようにしていく。 ・フォローアップシートを活用して，習熟を深める。
書くこと	○市及び県の平均正答率を8%程度上回っている。 しかし，平均正答率が52%のため，満足できる状況とは言えない。 ●メモを基に，報告レポートに適切な内容を書き入れる問題の平均正答率は33．3%で，県や市の平均正答率と比べると5～6%程度上回っているが，十分な状況とは言えない。	・国語の時間を中心に書く活動を意図的に取り入れ，文章構成力や，他者を意識した豊かな文章力をつけられるようにする。作文では，構成メモを活用し，推敲する活動を丁寧に扱う。 ・フォローアップシートを活用して，習熟を深める。
読むこと	○平均正答率は63．3%で，市及び県の平均を上回っている。文章の要点や細かい点に注意しながら読み，整理する問題では，県と比べて11%，市と比べると7．3%平均正答率を上回っている。 ●読むことに関する全ての設問で県の平均を上回っているが，60%程度の正答率であるため，満足できる状況とは言えず，改善の余地がある。	・説明文の学習では，単元の最後に段落同士の関係を考える場面を意図的に設定する。また，授業や朝の読書の時間を中心に読書活動を推進することで，豊かな文章に触れる機会を増やす。 ・フォローアップシートを活用して，習熟を深める。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みの平均正答率は71．3%で，市及び県の平均とほぼ等しい。 ●漢字の書きでは，平均正答率67．1%で，市や県の平均を7%程度下回っている。	・漢字ドリルや小テストなどを活用して反復練習を行い，漢字の定着を図っていく。また，教科書や漢字ドリルに載っている熟語をもとに習熟を図り，文章の中で習った漢字を使えるように指導する。 ・フォローアップシートを活用して，習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	78.2	74.5	74.6
	量と測定	63.7	62.4	60.4
	図形	80.0	69.9	70.1
	数量関係	70.4	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	67.3	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	77.2	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	79.2	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

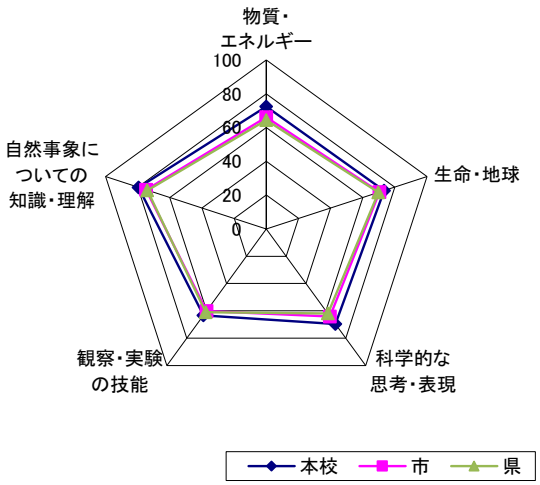
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は，市及び県の平均と比べて，ともに3%程度上回っている。	・普段の学校でのテストでも計算ミスが目立つ。計算ドリルやプリントを活用しながら繰り返し問題を解かせていく。 ・フォローアップシートを活用して，習熟を深める。
量と測定	○平均正答率は市及び県の平均を上回っているが，正答率が60%程度のため，満足できる状況とは言えない。 ●「ドッジボール1個のおよその重さを選ぶ」という設問の本校の平均正答率は，市や県の平均に比べて，ともに5%程度下回っている。	・今後学習する面積や体積の学習において，様々な具体物について大きさを調べたり，確かめたりするような活動を取り入れ，量の大きさについての感覚を豊かにしていく。 ・フォローアップシートを活用して，習熟を深める。
図形	○平均正答率は80%と市及び県の平均を10%ほど上回っていて，良好な状況である。	・コンパスや分度器を用いた作図の際にずれが生じてしまう児童が見られる。使い方をもう一度確認し，正しい使い方ができるようにしていく。 ・フォローアップシートを活用して，習熟を深める。
数量関係	○「式が表している意味を読み取り，適した考えを選ぶ」という設問の本校の平均正答率は，市及び県の平均と比べて若干上回っている。 ●「□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶ」という設問の本校の平均正答率は，市及び県の平均と比べて4%ほど下回っている。	・今後も，立式や計算により答えを求めることだけでなく，どうしてそのような考えに至ったのか，途中の考え方をノートに書かせたり話し合わせたりして，数学的な考え方を育てていく。 ・フォローアップシートを活用して，習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	72.4	66.1	64.4
	生命・地球	73.3	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	69.6	64.1	61.9
	観察・実験の技能	63.3	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	79.5	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は，市及び県の平均より6～8%上回った。 ○県の平均を10%以上上回った設問は，てんびんが釣り合うことから物の重さを推測する」「物の形と重さの体積と重さや体積と重さの関係が分かる」「実験結果からゴムをねじる回数を推測する」「電気の流れる通り道の名称が分かる」「1つの豆電球と乾電池を使いあかりがつく回路を選ぶ」であった。 ●県の平均を下回った設問は，「豆電球のつき方から箱の中の回路の様子を推測する」で，県平均を1．3%下回り，正答率は45．3%であった。 ●県平均を上回ったものの，正答率が50%を下回った設問は，「日光を重ねた時の明るさと温度の変化を考察する」で，29．3%の正答率であった。	・箱の中の回路を推測する設問の正答率が低かったことに対しては，実験したことを回路図に表したり，言葉にまとめさせたりして，事実を順序良く説明できる力を身に付けさせていく。 ・身の回りの自然現象に対して，まず，疑問をもち，その上で実験・観察を通じて検証していくといった，科学的に探究する学習活動を重視する。 ・フォローアップシートを活用して，習熟を深める。
生命・地球	○平均正答率は，県の平均を3．5%上回った。 ○県の平均を10%以上上回った設問は，「虫眼鏡の適切な使い方が分かる」であった。 ●県の平均から5%以上低かった設問は，「温度計の適切な操作方法が分かる」で，視線を温度計に対して直角に向けるというものであった。 ●正答率が50%を下回った設問は，「時間によるかげの変化のしかたが分かる」で，県平均は上回っているが，正答率は49．3%であった。	・「温度計の正しい使い方」については，授業の中で再度指導する。 ・実験・観察の手順などをその都度丁寧に指導するとともに，友達任せとせず，全ての児童が自ら操作できるように配慮する。 ・記述問題対策としては，観察・実験の結果を整理し考察し表現する学習活動を充実することで，自分の考えを自分なりの言葉で書き表す力を育成する。 ・フォローアップシートを活用して，習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第４学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

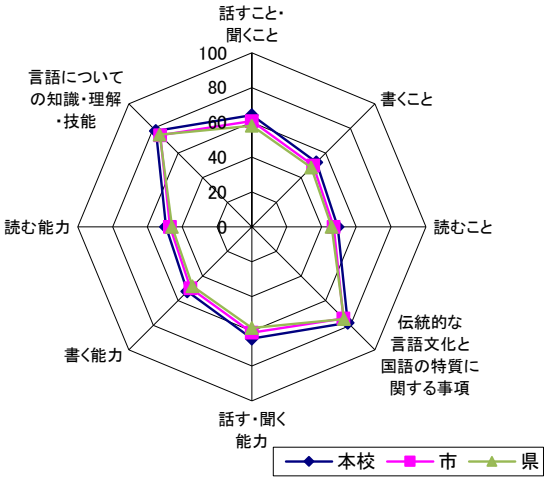
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「毎日朝食を食べている」の問いに対する肯定的回答割合は96％である。また，「自分は家族の大切な一員だと思う」に対する肯定的割合は93．3％を超えている。このことから，児童が各家庭で大切にされている様子がうかがえる。
○「勉強していて，不思議だな。なぜだろう。と，感じることがある。」の問いに対する肯定的回答割合は90．7％である。また，「学習して身に付けたことは，将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の問いに対する肯定的割合は94．7％である。このことから，学習することの必要性や学習への意欲が高い児童が多いと考えられる。
○「将来の夢や希望を持っている。」の問いに対する肯定的回答割合は90．7％である。今後も将来の目標を持つことの大切さを折に触れて考えさせる機会を設けたい。
●「家で，学校の宿題をしている。」や「家で，テストで間違えた問題について勉強している。」の問いにおいては，成績上位者の方が肯定的割合が高いことが分かった。４年生の家庭学習時間の目安40分を満たしていない児童もいるので，家庭学習の大切さを再度指導し，家庭に呼びかけ，家庭学習の習慣化を図っていきたい。
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の問いに対する肯定的割合は50．7％であった。授業の中で意図的にペア活動やグループ活動を取り入れ，自分の考えに自信を持つよう働きかけていきたい。

宇都宮市立峰小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	64.2	60.8	58.1
	書くこと	52.5	49.8	48.3
	読むこと	49.3	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.9	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	64.2	60.8	58.1
	書く能力	52.5	49.8	48.3
	読む能力	49.3	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	77.9	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

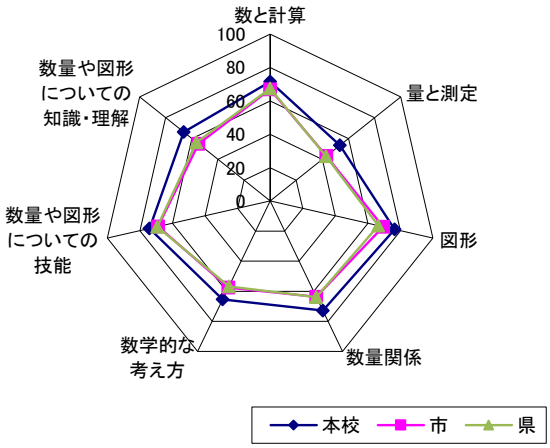
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は，市及び県より約3～6%上回っているが，平均正答率が60%台のため，満足できる状況とは言えない。 ○「話合いにおいて司会者の役割を理解し進行する」の設問の正答率が県の平均を10%上回っている。	・ペア，グループ，全体での話合いの時間を確保する。 ・「話し方」「聞き方」の指導を繰り返し行う。 ・話合いの手順を明確に示す。 ・音読音声教材である「話す・聞くスキル」を活用して，話すことの楽しさを身に付ける。 ・フォローアップシートを活用して，習熟を深める。
書くこと	○平均正答率は，市及び県より約3～4%上回っている。 ○「掲示物の内容に合う資料を選ぶ」の設問の正答率が県の平均を約6%上回っている。 ●市及び県の平均を上回ったものの，50%程度の正答率であり，満足な状況とは言えない。	・調べたことや体験したことを書く活動では，相手が知りたいことは何かを把握して書けるように，事実と感想，意見などの違いを意識して書けるよう指導を充実させる。 ・フォローアップシートを活用して，習熟を深める。
読むこと	○平均正答率は市及び県より約2～3%上回っている。 ●「叙述を基に，登場人物の気持ちを想像して読む」の設問の正答率が市の平均を約3%下回っている。	・登場人物の心情の変化を読み取れるようにする。そのため，繰り返し文章を読ませたり，印象に残った部分や自分の考えが伝わるように，工夫して朗読できるようにさせる。発問をする際には，児童が，文章の叙述を根拠に答えられるように留意する。 ・フォローアップシートを活用して，習熟を深める。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は市及び県より約3%上回っている。 ○漢字の書き取りでは，市及び県の平均より10%以上高かった。 ●「日常使われている簡単な単語の，ローマ字の読み方」の設問では，市及び県の平均を約7%下回っている。	・ローマ字の習得においては，朝の学習や宿題などで，ただ繰り返し練習させるのではなく，身の周りでローマ字表示されているものを見つけ，それを読んだり書いたりするなどして，ローマ字を身に付けられるようにする。 ・フォローアップシートやステップアップシートを活用して，習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.5	66.9	67.4
	量と測定	53.5	43.2	43.0
	図形	76.5	69.4	66.5
	数量関係	72.8	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	65.4	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	74.1	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	66.2	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

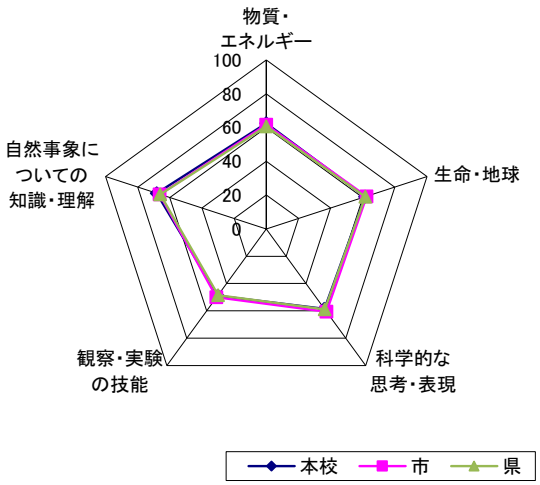
,○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は，市及び県の平均を上回っている。 ●かけ算の問題の平均正答率は，市及び県の平均に比べ3%程度低い。	・今後も，基本的な計算の定着に向けた練習を継続するとともに，児童の状況に応じてやや複雑な問題を解決する力も身に付けられるよう，習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。 ・整数や小数の乗法及び除法の場面で，「割合にあたる大きさ」，「基にする大きさ」，「割合」のうち，どれを求めているのかを確認する学習活動を展開する。 ・フォローアップシートを活用して，習熟を深める。
量と測定	○平均正答率は，市及び県の平均を10%ほど上回っている。 ○「式と図に合う複合図形の面積を求める方法を説明する」設問の平均正答率は市及び県の平均を10%上回っている。 ●市及び県の平均を上回っているものの，平均正答率が50%台と低く，満足できる状況ではない。	・基本の単位量1cm²，1m²の広さを実際に示すことで視覚的に捉えるように工夫し，量の大きさについての感覚を豊かにする。 ・面積を求めたり，角の大きさを測定したりする活動では，言葉，数，式，図などを用いたりして説明する活動を工夫する。 ・フォローアップシートを活用して，習熟を深める。
図形	○平均正答率は，市及び県の平均を7%ほど上回っている。 ○面積，角の大きさについての設問の平均正答率は，市及び県の平均を約10%上回っている。 ○「与えられた2辺の続きをかいて，平行四辺形を完成する」設問の平均正答率は，市及び県の平均を22%上回った。 ●「平面上にあるものの位置を表す」設問の平均正答率は，市平均を8．6%下回った。	・作図の問題は，実際にかくことを学習活動とし，定規・コンパス・分度器の使用に慣れ，正確に使えるように指導する。 ・角柱，円柱の特徴を捉えさせ，見取図と展開図を観察したり作図したりする活動を行い，空間についての感覚を養っていく。 ・フォローアップシートを活用して，習熟を深める。
数量関係	○平均正答率は，市及び県の平均を9%ほど上回っている。 ○計算のきまり，変わり方調べについての設問の平均正答率は，市及び県の平均を約13%上回っている。 ○「ブロックの並べ方とブロックの個数の関係を式で表す」設問の平均正答率は，市及び県の平均を約23%上回った。	・「なぜ，そのように考えたのですか。」などと問うことで，数量の関係を見出し，見通しをもって問題を解決することができるようにする。 ・収集した情報を表やグラフに整理した後，グラフ等から読み取ることができる数値を基に分かることをまとめて，説明する活動を取り入れる。 ・フォローアップシートを活用して，習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	62.5	61.7	60.7
	生命・地球	61.5	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	58.5	60.6	58.9
	観察・実験の技能	48.9	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	68.2	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○平均正答率は市及び県よりも若干上回っている。 ○内容ごとの平均正答率は，「空気と水の性質」「金属，水，空気と温度」「電気の働き」のすべての内容において，市及び県の平均を若干上回っている。 ○「電気の働き」の設問の中で，光電池の働きと光の強さの関係についての問いの平均正答率は，市及び県よりも20%ほど上回っている。 ●「金属，水，空気の温度」の設問の中で，沸騰の意味や湯気の正体についての問いの平均正答率は，市及び県よりも10%ほど下回っている。	・「科学的な思考・表現」を高めるために，実験や観察後には「なぜそうなったか」を思考させる時間を十分にとり，それぞれの考えを深めさせるようにする。 ・「観察・実験の技能」を高めるために，まずは教科書を用いて，基本的な観察・実験技能（顕微鏡の使い方，ルーペの使い方，ガスバーナーの使い方，ピペットの使い方等）を習得させる。その上で，観察・実験の内容に合わせて，個々に観察・実験内容を思考させる場面を設定する。 ・フォローアップシートを活用して，習熟を深める。
生命・地球	●平均正答率は県とほぼ同等で，市よりも若干下回っている。 ●内容ごとの平均正答率は，「月と星」は市及び県の平均を若干下回っている。 ○「天気の様子」の設問の中で，ラップの内側に水滴がついた理由を説明する問いの平均正答率は，市及び県よりも10%ほど上回っている。 ●「天気の様子」の設問の中で，ラップの外側に水滴がついた理由を説明する問いの平均正答率は，市及び県よりも15%ほど下回っている。	・「自然現象についての知識・理解」を高めるために，自然現象について，模型やICT機器を活用して，視覚的に理解できるようにする。その上で，覚えるべき用語等を小テスト等を活用しながら，習得させる。 ・フォローアップシートを活用して，習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第５学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「勉強していて，おもしろい，楽しいと思うことがある」「難しい問題にであうと，よりやる気が出る」の設問では，肯定的回答の割合が県より約5%上回っている。授業中も，難しい問題に意欲的に挑戦している児童の姿が見られる。更に充実した授業を展開できるように，分かる授業，楽しく達成感のある授業に努めていく。
○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の設問では，肯定的回答が100%であった。お互いに声をかけ，みんなのために役立とうと，係活動や給食当番に意欲的に取り組んでいる。家庭でも，家族の一員として家族の手伝いをしている様子がうかがえる。継続できるよう，声をかけていきたい。
○「先生は学習のことを褒めてくれる」の設問では，肯定的回答割合は，県から7%以上上回っている。今後も児童の努力している姿を認め，褒め，励ますことを継続していく。
●「早寝早起きを心がけている」の設問では，肯定的な回答割合は，県から約10%下回っている。授業中の意欲や集中力を高める上でも「早寝早起き」は重要である。家庭へ呼びかけるとともに，保健や学級活動等で指導していく。
●「授業では，自分の考えを発表する機会が与えられているの設問では，肯定的な回答割合が県より約5%上回っている一方で，「授業では，クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定的な回答が，県よりも約6%下回っている。全体の話合い活動だけでなく，ペア・グループなどでも十分に自分の意見や考えが話せるように，時間の確保をしていく。
●「家で学校の授業の復習をしている」の設問では，肯定的回答割合は，県・市から10%以上下回っている。家庭学習の手引きをもとに，継続して復習を行えるよう繰り返し話すと共に，自主学習を進んで行っている児童の取り組みを紹介したり，興味関心を引く宿題を出したりする。

宇都宮市立峰小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「学んだことを振り返る活動」の充実	○本時の学習を振り返るための視点を児童に与える。 ○「ふりかえり」などの学習掲示物を用い，今行っている学習活動を意識させる。	○「授業の最後に，学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定割合は，市平均に比べ，4年は10．8%，5年は10．1%低い。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
算数の数量関係の指導の充実	○29年度はわり算に関する問題に課題が見られたが，30年度は改善した。しかし，以下のような問題は市平均を下回っている。 4年「□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶ」 5年「3位数×2位数＝4位数」	○フォローアップシート，ステップアップシートの活用により，基礎基本の定着を図る。 ○朝の学習や算数の授業において，必要に応じて無担の教員が学級に入り，学習につまずきの見られる児童を対象に個別支援する。